

成願寺

季報
114

平成29年8月18日
(2017年)

目次

「妙觀察智」の智恵に気づく 藤木雅雄……………	1
台湾の剣道場より坐禅修行に來山……………	6
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十九年春の観音詣り説教

「妙觀察智」の智恵に気づく

浄土宗田嶋山九品院・迎接院住職／浄土宗ともいき財団事務局長 藤木雅雄

本日はようこそお詣りくださいました。私は学生時代から車で山手通りを走る用事がございました。そんな頃より、まるで宇治の萬福寺のような素敵なお寺があるな、と憧れておりました。その成願寺様よりおいでくださったということ、今日は長年の



浄土宗田嶋山九品院・迎接院住職
浄土宗ともいき財団事務局長
藤木雅雄上人

思いが通じたような心持ちであります。

少しお時間をいただきまして、お話を差し上げたいと思いますが、先日あるお医者さんにお会いしましたら、こうおっしゃっていました。「住職ね、歳を取つてから大切なのは『きょういく』と『きょうよう』だよ。なにかなと思いましたが、「今日行くところがある」こと、「今日用がある」ということ。この二つは歳を取ったら大事だと、しみじみ話されました。確かにそうだなと思えますし、しかも観音様詣りが、「今日行く」と「今日用」というみなさんは、本当に素晴らしいと思います。

私ども浄土宗の本尊様は阿弥陀如来です。脇侍はみなさまが巡拜される観音菩薩と、勢至菩薩。浄土宗のお寺は東京だけでも四百余カ寺、全国で約七千カ寺ございます。浄土宗のだいたいのお寺に阿弥陀様と共に観音様がお祀りされていますし、各宗派のご寺院で信仰を集める観音様ですから、みなさんの「今日行く」と「今日用」は尽きることがない。

ぜひこの尊い信仰を続けていただきたいなと思うわけでございます。

書をなすものは自分自身の心

私ども九品院は元々は浅草にございましたが、関東大震災で被災して、この地に移って参りました。元はいまの浅草ビューホテルの裏手にあつたのですが、この練馬に移転しまして九十四年ほどになりました。実はその前にも江戸幕府の政策による移転、明暦の大火、安政の大地震、東京大洪水など幾多となく被災して、その都度、当時の住職の努力、檀家の協力とともに復興し、ようやくこの地にたどり着いたという開創四百二十年ほどのお寺でございます。

人間誰しもそうした苦勞をいたしますが、苦しい時、たいへんな時に読みたくなるお経に先ほどみなさんがおつとめされた観音経がございます。観音経と言いますのは法華経の一部です。法華経は二十八章からなっております、二十五章がこの観音経。正式名称は「観世音菩薩普門品」。

なぜ普門かと申しますと、観音開きという言葉もございますが、どこからでも入つてこられる、なんの苦勞でも受けてくださる。普く、もれなくすみず

みまで及んでいる。それで普門品というのです。

観音経はなぜありがたいのでしょうか。それは最初に書いてあるのですが、人が苦勞した時、苦しい時に観音様の名前を一心に唱えればみんな救つてくださるといふのです。例えば火の中に落とされても、大海に落とされても、または龍や鬼に囲まれても、この名を唱えれば救つてくださる。

ここで大切なことがございます。「読経眼」といふ言葉がございますが、お経をただただありがたく読むだけではなく、その書いてあるお経のことを自身のこととして読むといふことです。

具体的に申しますと、お経には、仏様、菩薩様、または仏様の弟子たちが登場します。そのお経に出てくるものが自分の代名詞だと思ふのです。また、そこに出てくる火や水、または龍や鬼は自分自身の心なんだと読むのです。観音経というお経は「読経眼」がないとなかなか理解が難しいのです。

呪詛諸毒藥 しゆそしよどくやく
ねんびかんのんりき ねんびかんのんりき
念彼観音力 ねんびかんのんりき
還著於本人 しよやくがいにんしや

一部書き出して見ましたが、これはいつたいたいどういふことでしょうか。呪詛や毒薬をもって私を書そう

と欲する者は観音様の力でみんな消えちゃいますよ、
というのです。これはなにが言いたいのか。

学び取る智恵

みなさん、仏教にはたくさんのお仏様がいらつしや
います。いろんな菩薩様もいらつしやる。いいですか、
仏様はお釈迦様が悟った内容なんです。

こちらにお祀りしている阿弥陀如来。サンスクリッ
ト語のナミターバの漢字版なのですが、南無と言いま
すのは帰命と訳します。阿というのは否定の意味。
弥陀というのは、メジャー。洋服屋さんで使うメ
ジャーのことです。測るということ。われわれの測
る世界を超えて（否定して）、仏に帰っていくという
のが、阿弥陀仏の意味です。これを無量寿、無量光
と訳した。無量の命と、無量の光です。

お釈迦様は悟ってみると、自分は自分であるけれ
ども、この自分は宇宙、真理、真実の象徴的存在で
ある。永遠の命の一環である。だから私は生まれた
ということもない、死ぬということもない。不生不滅、
無量の命だとわかった。私がそうなのだから、他者
もそう。他者もそうなのだから、動物も木も草もみ
んなそうだ。山川草木すべてが不生不滅で無量の命。

そういう宇宙の真理、その内容が阿弥陀如来なので
す。

お釈迦様は光です。その昔、お釈迦様が姿を表
すとバイロンチャーナと言つて合掌したそうです。
バイロンチャーナというのは大きな大きな光とい
う意味。これを訳さずに漢字に置き換えますと、
毘盧遮那^{びるしゃな}。東大寺にお祀りされている大仏様のこと
です。大仏様は大きな大きな光なのです。それを真
言宗では大日如来と訳しました。

では菩薩様と言いますと、これはお釈迦様が修
行した名前です。違う風に申しますと、人間なら誰
でも持っている機能。これを菩薩と言います。みさ
さんが信仰される観音様はサンスクリット語でロー
キテーシュヴァアラ。ローキテはルック、見る。シュ
は抱える。ヴァアラは否定する。つまり、「自分の」の
「の」を取った（否定した）見方ができることを観音
の力と言います。これを我々はすでに持っているとい
うのです。

「眼聴^{げんちやうし}耳視」という言葉がございます。眼で聴いて、
耳で視る。不思議な言葉ですが、お医者さんは聴診
器を耳にして、患者さんの身体の音を聞きながら病
気を診る。あの陸上短距離のポルト選手は風を聞き

ながら、自分がどのぐらいで走っているか知るそう
です。ベートーベンは四十歳ごろから耳が聞こえな
くなりますが、彼はピアノを函でかじって音の振動
を感じ、あの交響曲第九番を作ったそうです。何が
言いたいかと申しますと、人間は眼で見るだけで
なく、五感の機能を持ってあらゆるものを感じ、知
ることができる。

これを現す言葉で「妙観察智ひょうかんざち」という語がござい
ます。自分と相手を一緒にして、自分の感情を入れて、
そこから何かを学ぼうとする智慧です。

お母さんが、赤ちゃんが寝てくれたからそつと布
団に移して台所仕事をしています。すると、ふすま
の向こうから赤ちゃんの泣き声が聞こえてくる。「あ、
おしめだわ」。あるいは「これはお腹が空いたんだわ」。
はたまた「具合が悪いかしら」と。赤ちゃんの顔を
見る前にわかる。赤ちゃんと一体になって、自分の
感情を入れて、なにかを学び取ろうとする智慧。世
の中のお母さん方は自然とやっているんですね。赤
ちゃんの泣き声を聞いただけで観えちゃうんです。
観音はそういう字を書きますよね。

日本では我が子を人に紹介する時に、「できの悪い
息子で…、料理もできない娘で…、お恥ずかしなが

ら…」、なんて本当はできてもそんな風に言ったりし
ます。それを聞いた子供は、「なんでそんなこと言う
んだ」と怒らない。お父さんとお母さんは自分を愛
しているとわかっているから怒らないんですね。他
の人に言われたなら「あなたに言われる筋合いはな
い」と怒ります。しかし親の愛がわかる。声を聞いて
親の心が観えるんです。

こんな話があったそうです。昭和の貧しい時代の
頃のこと、小学校に通う子が毎日弁当を持って登校
していた。お昼になって弁当箱を出してみたら、間
違えてお父さんの弁当を持ってきたことに気づいた。
その子は「しめしめ、今日はおやじの弁当だ」と喜
んだ。そうして開けてみると、なんとおやじの弁当
はいつもの自分の弁当の半分。しかもいつもはおか
ずがついているけれど、おやじの弁当は味噌だけだっ
た。家でもいつも「俺はお腹いっぱいだ。お前が食
べろ」と言ってくる。親が自分を思う気持ちを知っ
た時、泣いて食べられなかったというのです。

その子には親の心が観えた。みなさんも思い当た
りますでしょう。お父さん、お母さんから、または
ご友人からでも、「身体に気をつけるよ」と何度言わ
れましたか。その言葉の中に万感の気持ちが入って

いた。それにいま、思い当たりませんか。いただいた言葉以上のことが、いまのみなさんには感じ取れているはずです。

この「妙観察智」ができるのと、「知恩」、「感恩」、「報恩」。この三つがでてきます。恩という字を見てみますと、原因の因に心と書きます。いまここにいられる理由がわかるんですね。

私がふてくされていても、家族のためにご飯を作り、洗濯をして掃除をして育ててくれたお母さん。外に出れば七人の敵と言うけれども、黙々と働いて家族を養ってくれたお父さん。何かあると自分のことのように心配して気遣ってくれる友人。辛い闘病生活で毎日様子を覗きにくれた看護師さん。また、嫌な上司がいて、辞めてくれないかと思っていた。でも辞めてわかった。あの人がいてくれたから今の自分がある。

みなさんにもご経験があるはずです。あの時、あの時の縁の積み重ねで、いまここにいられるんですね。おかげさまなのです。そこに気づけたとき、人はみな「よし、お返しをしよう」と思うんです。実家を出て、結婚して子供ができたら初めてわかるんです。一家を持つのはたいへんだと。しかもあの時

代によくも私をこんなに育ててくれたものだと。「お返ししよう」と心から思うのが親孝行です。

日経新聞の「私の履歴書」というコラムが好きでよく読みますが、政界、財界、外国の方、スポーツ選手と色々な方が紹介されますが、だいたい最後はみなさん同じなんです。「自分の歩んできた道には色々な苦労もあつた。しかしその都度、家族が友人が、あの人が、この人が助けてくれた。私の残された人生、誰かにそれをお返しして人生を全うしたい」。だいたいの方がこのように締めくくられる。これは仏教徒であろうがなかろうが同じなんです。

ここで、先ほど紹介した観音経の一説です。

しゆそしよどくやく、しよよくがいしんしや
呪詛諸毒薬、所欲害身者
ねんびかんのんりき、げんじやくおほんにん
念彼観音力、還著於本人

あの人は私を中傷する。陰で私を陥れようとしている。なんでそんなことをするんだろう。なんて嫌な人なんだろう。そのときにこそ「念彼観音力」、「妙観察智」。自分と相手を一緒にして、自分の感情を入れて、そこから何かを学ぼうとする。つまり、人の立場からものを観てみる。そうするとそこに気づきがある。知らず知らずのうちに私の方が先にあの人

を傷つけていたんだ。私が嫌だ嫌だと思っていたこと、これは自作自演であった。つまり、「還著於本人」。気がつけば、環めぐって環めぐって本人に落ち着くわけです。この智慧をわれわれはすでに持っているということ、観音経に書かれている。気がつけ、気がつけと書かれているのです。

人はだいたい良い時に悪い種を撒きます。良い時に、意識になくても人の足を踏む。では、どうしたら「妙観察智」が出てくるのでしょうか。そのために修行があるわけですが、自分の思い上がり、驕り、うぬぼれが壊れた時、「妙観察智」の智慧が頭をもたげてくるのです。

みなさんには、お経を読まれる際には、自分を振り返り、驕っていないか、うぬぼれていないか反省しながらおつとめいただき。ぜひそういう、自分に向けた観音詣りにしていただければありがたいと思っております。

合掌

台湾の剣道場より坐禅修行に來山

去る七月十九日（水）、荻窪道場井上和英氏の案内で、台湾体育会剣道委員会日本参訪団二十六名が來山。本堂に於いて坐禅を修行しました。そのあと、

書院にて、作法に則りお粥をいただきました。感想文が届きましたので、翻訳して紹介します。

（中一） 楊淳安

坐禅の体験をさせていただき、ありがとうございます。静かに心で大自然の真実な秩序を観察して、とても人生に有益なことだと信じております。（台湾に帰って母に報告しました。母もたいへん喜んでおりました）。ご指導を下さった先生の方々に改めて感謝申し上げます。

本堂によい体験でした。

（小四） 楊捷奮

これは私の二回目の坐禅体験です。とても難しかったです。なぜかずっと笑いたくて、すみませんでした。台湾でもずっと続けて練習したいと思います。集中力



が高まって勉強にも役に立っていると思います。

楊心豪

この度お寺で坐禅修業体験ができました。ありがとうございます。とても気持ちが穏やかになれた一刻でした。

黄篠茜

中学校の時代、よく正座をしました。この度ふたたび坐禅の体験をさせていただき、とても思い出深いものです。こんど写経の体験もしたいです。

高雄市剣道委員会 剣道六段 黄昭文

まず感謝の一言を言わせて戴きます。

この度、剣道の道場を提供し、また、高雄剣道訪問団のために立派な先生を紹介して下さいました。更に、坐禅修行もさせていただけたことに深く感銘



本堂にて坐禅修行



感謝してお粥をいただく一行



本堂前で記念撮影

を受けました。佛の慈悲のこころを感じながらいつその精進に励んで参る所存です。

諸先生の指導を受け、この度われわれが多くの教益を受けて、とくに坐禅を通して佛の不可思議な因縁の尊さを感じました。ただ十数分間の坐禅ですが、指導のお坊様は非常に丁寧懇切ですので、坐禅の要領がよく得られました。参禅中、二人の女の子が好奇心に誘われて小さい声で笑っていたけれども、それもまた、如実のまま、少しも私の集中力に影響せず、明歴々、露堂々という醍醐味に些少なから体験できました。

私は台湾において、道元禅師の「只管打坐」という曹洞宗の信者であります。同参の方はそれほど多くはないが、台湾で約二、三万人がおります。なぜならば、道元禅師の思想や著作が非常に難解なもので『正法眼蔵』『永平広録』等は非常に奥深いものであります。また、練香一本約四十分間の坐禅も一般の人々はなかなか大変なことであり、疲れや足の痛みに堪忍できぬこともあるでしょう。しかし、私は長い間に剣道と道元禅を習得したので、お陰様でとても安楽な道、喜び溢れる人生修

行だと思えます。上述のように、浅い見地ではありませんが、まだまだ修行中の身でございますので、ご指導のほどお願い申し上げる次第であります。

剣道八段 陳炳麟

この度、剣道を通してご厚誼ができたことに対して衷心より感謝申し上げます。

成願寺での坐禅体験は、とても貴重です。「身心一如」という禅修行、そして正しい進退や行儀良い食事の取り方などに非常に感銘を受けました。ちよつと残念なのが子供達はすぐに慣れず、笑い声や咳などをしてしまい、厳肅たる禅寺に不敬を払ってしまつたこと、謹んでお詫びを申し上げます。

山内短信

◎秋彼岸中日法要 修証義奉読会

九月二十三日(土・秋分の日)

十一時 受け付け始め

十二時 講談 日向ひまわり師

十三時 修証義奉読

◎秋の観音詣りのお知らせ

十一月八日(水)から一泊で、大河ドラマ「おん

な城主直虎」で話題の静岡西部の寺院を巡拝します。

八日：成願寺朝七時集合出発―臨濟宗方広寺・精進料理・諸堂拝観―写仏(経) 体験―地底大滝・竜ヶ岩洞見学―浜名湖館山寺温泉「九重」泊

九日：龍潭寺・小堀遠州禅宗庭園見学―少林寺・井上貫道老師説教―成願寺十七時半帰着予定

◎第十八回「いのちの尊さを祈る日」の報告

去る五月二十一日(日)、新井薬師にて東京山の手大空襲殉難者、近來の災害犠牲者の慰霊法要が執り行なわれました。中野区宗教者懇話会の主催で、神道・仏教・キリスト教・天理教・金光教・解脱会・立正佼成会が一堂に会し、本年当番成願寺が追福供養記念講演に次いで中野区長ほか全参加者が献花し、平和への祈りが捧げられました。



◎行事予定

成道会一泊坐禅会 十二月二日(土) 夕々翌朝

納めの観音(年末の会) 十二月十八日(月)

午後二時よりご祈禱・説教・会食